



小金井市環境市民会議

会報 No.09

小金井の環境をみんなで考えるマガジン

2008.11

くるりんぱ

kururin.pa

<http://www.koganei-kankyo.org/>



クリンちゃん

無口で

はずかしがりやな
キレイ好き。

グレンちゃん

ぐしゃぐしゃで

さみしがりや。

クリンちゃんとは
おともだち…?



平成20年度小金井市環境フォーラム

かんきょう博覧会2008 in 小金井

— 手をつなごう小金井のかんきょう —

映画「アース」

11/16 午前に上映!鑑賞無料

(16mmでの上映。保育あり<2歳以上/
先着20名>:予約制。予約は環境政策課
042-387-9817までお願いします。)

食～小金井の「秋の実り」を味わおう!

風景～自慢の風景と手作り鉄道模型

アート～自然・身体・ダンス

子ども～秋の農場でお腹一杯遊ぼう!

映像～環境と映像

ごみ問題～みんなで考えましょう



(イラスト: 平崎絵理)

11月15日(土) 10:00～17:00

11月16日(日) 9:30～16:00

東京学芸大学

芸術館 & 環境教育実践施設

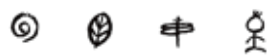
主催 小金井市環境市民会議

共催 小金井市、東京学芸大学

問合先 環境政策課 (042-387-9817)

*より詳しい情報は環境市民会議ホームページをご覧ください。

環境市民会議ホームページ <http://www.koganei-kankyo.org/>



かんきょう博へようこそ

今年の「かんきょう博 2008 in 小金井」のテーマは、昨年と同じ「手をつなごう 小金井のかんきょう」です。どうしてかという、皆さんにもっともっとお互い知り合ってもらって、環境に関わるさまざまな人々の生き方や考え方、それに情報を共有してもらいたいからです。

環境と言ってもいろいろな意味が含まれています。今回のプログラムには、これまでの自然、ごみ問題、まちづくり、食などに加え、その考えをさらに広げ、芸術（アート・パフォーマンス）やさまざまな切り口で環境をとらえた映像も入っています。そして、映画「アース」の美しい地球の風景もぜひご覧いただきたいと思います。

会場では同時に小金井市のシンポジウム「雨を活かすまちづくり50年の継承」や、東京学芸大学多摩川エコモーション主催「We Love Tamagawa いのちをつなぐ138」も開催されておりますので、そちらにもぜひ足をお運びください。もちろん、子どもたちが楽しめるイベントも用意しています（会場B：環境教育実践施設）。

この会場で、への取り組みにもいろいろなやり方があるということがお分かりいただければ幸いです。またここが、人と知り合え、語り合え、そして皆が手をつなぐことでいろいろなものが見えてくる場となることを願ってやみません。

最後に、会場を提供くださり多方面でご尽力いただいた東京学芸大学の皆様に、心よりお礼申し上げます。

2008年11月 小金井市環境市民会議代表 平井正風

ヒストリー・オブ かんきょう博

●環境フォーラムはかつては小金井市の事業で、実行委員会主催で毎年開催されてきました。2004年から、環境市民会議の発足により、環境市民会議と小金井市の共催で行われることになりました。

●2005年には「環境博覧会 in 小金井」として第1回を開催し、今年で4回目を迎えます。「手をつなごう 小金井のかんきょう」というテーマで多くの市民、団体、学校、企業、そして行政が連携・交流し、広く市民に小金井の環境をアピールしようというものです。

●毎年少しずつでも広がり、「環境」という面から人と人がつながり、お互いの活動を知るところから、まちづくりまでを見渡したものになってきています。

●平成17年度環境フォーラム
「環境博覧会 in 小金井—手をつなごう 小金井のかんきょう—」

日時＝2005年9月18日(日)

場所＝小金井市福祉会館

参加団体＝34(市民団体、学校、企業、行政)

●平成18年度環境フォーラム

「環境博覧会 in 小金井パートII 手をつなごう! 小金井のかんきょう」

日時＝2006年9月9日(土)・10日(日)

場所＝小金井市福祉会館

参加団体＝40(市民団体、個人、教育機関、企業、行政、環境市民会議各代会)

●平成19年度環境フォーラム

「環境博覧会 in 小金井 手をつなごう! 小金井のかんきょう」

日時＝2007年9月23日(日)・24日(月・祝)

場所＝法政大学工学部

参加団体＝40(市民団体、個人、教育機関、企業、行政、環境市民会議各代会)



会場A: 芸術館

ホール:

- 11/15 ・シンポジウム「We Love Tamagawa」
・小金井市「雨を活かすまちづくり50年の継承」
8市市長サミット+シンポジウム
- 11/16 ・映画『アース』
・小金井のごみに危機感を持つ市民グループによるシンポジウム「ごみを出さない生き方!?!+
ごみを燃やさないやり方!?!」

SPACE ①

エコ関連企業展示コーナー
土ようのたまり場

SPACE ②

展示: (ごみ問題グループ)
小金井市環境市民会議 ごみ部会
小金井市ごみゼロ推進会議 まち美化部会
小金井市ごみゼロ推進会議 啓発部会
小金井市ごみゼロ推進会議 事業所部会
小金井市ごみ対策課
小金井生活クラブ運動グループ地域協議会
シニアSOHO小金井
トンボの会

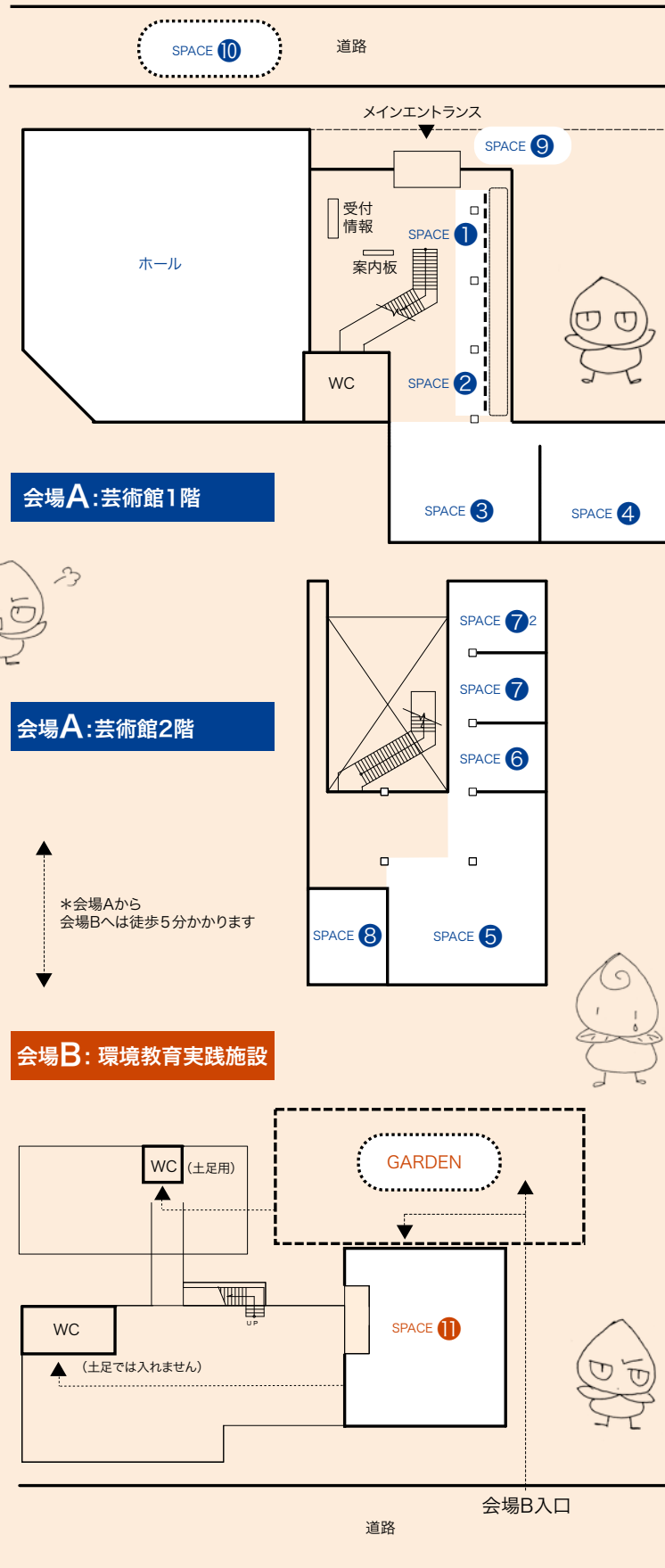


SPACE ③

展示:
名勝小金井桜の会/小金井公園桜守の会
自然の会こがねい/野川自然の会
野川流域連絡会
みんなでつくる野川ビオトープの会
東京都建設局土木研究センター
KOKOぶらねっと/わんぱく夏まつりの会
小金井にプレイパークを作る会
回帰船保育所/ひ・ろ・こらぼ
小金井市消費者団体連絡協議会
小金井市放射能測定器運営連絡協議会
小金井市環境政策課
小金井市環境政策課 緑と公園係
パーマカルチャーこがねい
トランジションタウンこがねい
グリーンネックレス/全国無洗米協会
ミュゼダグリ/北欧楽会
法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
東京経済大学除本ゼミ
小金井市環境市民会議 地下水部会 他



会場案内図



SPACE 4

11/16 アートパフォーマンス(ダンスカンパニー ノマド〜s)
映像: 消失に関する3章の映画より〜第1章: 影について(パリ)
展示: アール・ドール/小金井地産地消追跡隊
高橋友次郎写真展: 再開発と高架工事

SPACE 5

展示: 多摩川エコモーション
(教育GP関連学生作品および流域自治体、NPO展示)
甲斐扶佐義写真展: 京の街角、猫、美女たちなど(仮)

SPACE 6

展示&シンポジウム:
「あなたの公園やベンチは元気ですか？」
(小金井市環境市民会議 まちづくり・緑調査部会/こがね
いまちづくりフォーラム)

SPACE 7

写真展: いま子どもたちに「水俣」を

SPACE 7.2

映像: 多摩川中流域の生きもの—多摩川と日野の四季—

SPACE 8

映像: 環境と映像(One's Eyes Film/小金井平和ネット/
Japan Young Greens 他)

SPACE 9

リユースカップによるジュース販売
「デポジット体験しませんか」
(小金井市環境市民会議 ごみ部会)
珈琲屋台 出茶屋



SPACE 10

鉄道模型実演(富永一矢レイアウト)<雨天中止>

会場B: 環境教育実践施設

SPACE 11 食のスペース

小金井市制50周年記念スイーツ販売
映像: 小金井の農業にかける熱い想い
お話: 小金井の風景で遊ぶ〜爺ちゃんが語る思い出話〜
(富永一矢さん)
11/15 エコハピクイズ(東京ガス多摩支店)
11/16 わたあめ(わんぱく夏まつり)<雨天中止>
17:00〜交流会(クロージングパーティー)
*当日申込みOKです!

GARDEN

11/15 餅つき&焼き芋(小金井市環境市民会議
環境学習部会 田んぼの時間)
11/16 プレイパーク(小金井にプレイパークを作る会)



映像から環境を考える

EARTH (アース)

11/16 10:00～11:40 会場 A (芸術館) ホール
ドイツ/イギリス 16ミリ映画 2007年 96分

多くの人々の心をひきつけた海洋ドキュメンタリー『ディープ・ブルー』(2003)、テレビ放送で驚異的な高視聴率を記録した『プラネットアース』のスタッフが挑む、かつてない“生命(いのち)”の旅。『アース』には、誰もが経験したことのないスケールで迫るダイナミックな景色、そこに生息する見たこともない生き物たちが登場します。それはあたかも未知の惑星の生態系を見ているような異次元の光景。しかし、これはまぎれもなく“母なる星・地球”のありのままの姿なのです。

【あらすじ】

今からおよそ 50 億年前、巨大な隕石が地球に衝突し、その衝撃により地球の地軸は 23.5 度傾いてしまいました。この傾斜が、地球に四季の移ろいや多様な地形をもたらし、生命

の誕生に重大な役割を果たすこととなります。

北極を基点に地球縦断の壮大な旅にでた撮影隊は、ホッキョクグマ、象、ザトウクジラの親子に導かれ、さまざまな命の営みに出会います。



小金井を中心に活動するグループが、「環境」についての映像を上映します

二十四年目の春

11/15 11:00～11:45 会場 A (芸術館) SPACE ③
矢野大祐 / Japan Young Greens ビデオ 2008年 45分

【Japan Young Greens 企画】
高尾山に圏央道のトンネルが掘られる！ 道路も大切…山も大切…。道路行政と自然保護のあり方を考える、トンネル工事推進派・反対派の両者のインタビューからなる映画です。



サクリファイス (THE SACRIFICE)

11/15 13:00～13:25 会場 A (芸術館) SPACE ③
Feldat Film ビデオ 2003年 24分

【小金井市放射能測定器運営連絡協議会 企画】
チェリノブイリ原発事故の影響について検証したスイスのドキュメンタリー作品です。

にがい涙の大地から

11/15 15:00～16:30 会場 A (芸術館) SPACE ③
海南友子監督 ビデオ 2004年 87分

【小金井平和ネット 企画】
戦争が終わって 60 年。中国の大地には今も、日本が棄ててきた兵器が人知れず眠っている。かつての戦争の置き土産で、平和な時代に傷つけられ、命を落とす人々。彼らの声に耳を傾けてください。



アイスランドに地球の鼓動を聞く

11/16 11:00～11:30 会場 A (芸術館) SPACE ③
小金井市視聴覚ライブラリーより 16 ミリ映画 27 分

水からのメッセージ

11/16 11:30～12:05 会場 A (芸術館) SPACE ③
小金井市視聴覚ライブラリーより 16 ミリ映画 34 分

ヒロシ マナガサキ 一核戦争のもたらすもの

11/16 13:00～13:50 会場 A (芸術館) SPACE ③
小金井市視聴覚ライブラリーより 16mm 映画 46 分

【One's Eyes Film 企画】

小金井市の視聴覚ライブラリーは記録映画やアニメーション映画、教育映画など約 400 作品の 16 ミリ映画を所蔵しています。この中から環境をテーマにした 3 作品を上映します。

水俣病 – その 20 年 –

11/16 14:00～14:45 会場 A (芸術館) SPACE ③
土本典昭監督 DVD 版 (オリジナル 16 ミリ映画) 1976 年 43 分

海とお月さまたち

11/16 14:50～15:40 会場 A (芸術館) SPACE ③
土本典昭監督 16 ミリ版 (オリジナル 35 ミリ映画) 1980 年 50 分

【「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク 企画】

水俣の記録映画を撮り続けた故土本典昭監督の「公害」作品の原点であり、水俣病をわかりやすく解説した『水俣 – その 20 年 –』、子どもたち用につくられた『海とお月さまたち』を上映します。



「水俣病 – その 20 年 –」

出展者自身がさまざまな視点で制作した映像作品です

多摩川中流域の生きもの—多摩川と日野の四季—

両日とも 10:00～ 会場 A (芸術館) SPACE ⑦2

制作：井上録郎 音楽：石橋史生（東京学芸大学准教授）

多摩川編 20分 日野の四季(春夏秋冬)編 35分

多くの市民の方々と共に多摩川と浅川、谷地川、多摩丘陵の日野の自然を守って行きたいと思っています。特に、未来を引き継ぐ子ども達には自然を愛する気持ちを育み、体験豊かに成長してもらいたいとの思いがあります。小学校の子ども達がこの映像を見て自然に興味を持ち、川や丘陵の中に出かけ遊ぼうという気持ちになってくれることを願い、日々、ハイビジョンカメラで映像制作に取り組んだ作品です。



小金井の農業にける熱い想い

11/15 12:30～/15:30～

11/16 10:30～/12:20～/15:30～ 会場 B(環境教育実践施設)

監督：鈴木真美子 制作：小金井地産地消追跡隊（多摩川エコモーション学生企画委員）DVD 2008年 約20分

小金井の農業について取材したドキュメンタリー映像を上映します。小金井の農家のうち、最高齢である94歳の鈴木五黄さん（写真）と、鈴木さんを支える息子さんの2人で農業を続けている農家、江戸東京野菜復活のための活動、子どもの農業体験を広めるための活動…。それぞれの農業に対する熱い想いを凝縮した映像をぜひご覧下さい!!

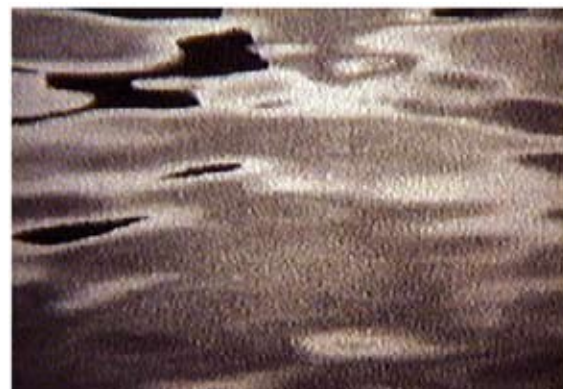


消失に関する3章の映画より 第1章：影について（パリ）

11/16 12:00～ / その後も随時 会場 A (芸術館) SPACE ④

イメージ・テキスト：緒方恵一 Super8/DV 1994年 12分

つねに消えゆき、そして移り変わり都市風景の消失を、水の流れになぞらえ捉えたシネポエム。映像は記憶と意識の関連性を探究していく。パリのとある街角で見つけた「欲望通り」。家々に刻印された「demolier 崩壊」の文字。そんな風景から「欲望という名の電車」のブランシ・デュボワの旅が重ね合わされて行く……。混沌と散逸する映像（イメージ）に満たされた都市空間。そして意識の中に現れるもうひとつの記憶空間の旅。（1995 Film+Arc 映画祭公式選出作品、Graz, Austria）アール・ドール提供



Three Films About Disappearance
(Paris: Shadow) Super8/DVD 1994 Image+text: Keiichi Ogata

This experimental documentary series tries to establish how deeply an outsider can relate to each of these cities. Throughout the project, I tried to illustrate the significance of recollection as a means of illuminating a city's progress into the future.

Paris: Shadow

The project starts by juxtaposing the story of Blanche DuBois from "A Streetcar Named Desire" against a happenstance glimpse of a white graffiti shadow scrawled on a wall on a street called Rue Désirée, where the buildings are scheduled for destruction and the immigrant residents have been forced to leave.

シンポジウムをとおして環境を考える

小金井のごみに危機感を持つ市民グループによるシンポジウム ごみを出さない生き方!? + ごみを燃やさないやり方!?

11/16 13:00～14:30 会場 A (芸術館) ホール

主催＝環境博覧会 ごみ問題グループ

ごみ問題は「発生抑制」「処理方法」、この両輪が上手に動かなければ解決しません。小金井のごみに危機感を持つ市民団体が共同で、武蔵野市の新クリーンセンター施設まづくり検討委員会副委員長の田村和寿さんをコーディネーターに、小金井市の将来をみすえた焼却しない新しいごみ処理方法について報告し、焼却・非焼却の違いをわかりやすく説明します。「出るごみ」「出たごみ」の処理ではなく、「ごみを出さない生き方」から、ごみ問題を考えてみませんか。

シンポジウム あなたの公園やベンチは元気ですか?

11/16 13:00～14:30 会場 A (芸術館) SPACE ⑥

主催＝小金井市環境市民会議まちづくり部会・同緑調査部会・こがね

いまづくりフォーラム

多くの人に愛され、大事に使われる公園やベンチってどのようなものでしょうか。この問題を考えるシンポジウムです。みなさん、お気軽にお立ち寄りいただき、ご自分の近くの公園やベンチについて、また今まで見たことのある気に入った公園やベンチについて、話しあってみませんか。

写真から環境を考える

再開発と高架工事

会期中 会場 A (芸術館) SPACE ④

撮影＝高橋友次郎 (写団小金井会員)

JR 中央線高架化後の初の上下線電車の発着など、20 枚を展示します。

京の街角、猫、美女たちなど(仮)

会期中 会場 A (芸術館) SPACE ⑤

撮影＝甲斐扶佐義 (京都ほんやら洞主人・写真家)

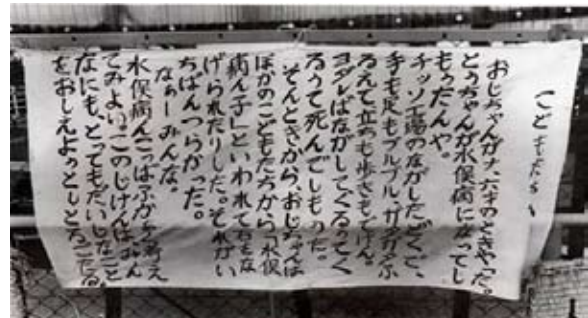
京の街角、猫、美女たちなど 20 枚。

いま、子どもたちに「水俣」を

会期中 会場 A (芸術館) SPACE ⑦

企画＝「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク

「水俣」の写真から私たちの街を考えます。写真に耳を澄ませてください。



アートをとおして環境を考える

アート～自然・身体・ダンス～

11/16 13:30/15:00～ 会場 A (芸術館) SPACE ④

出演＝Dance Company Nomade～s (ダンスカンパニーノマド～s)

企画＝アール・ドール

内なる自然と外なる自然、身体はそれをつなぐ媒体だ。身体から何かが始まる…。そんな予感のするダンスパフォーマンスです。Dance Company Nomade～s は 1992 年より、熊谷乃理子 (振付家) と池宮中夫 (美術家) を中心に、日本のコンテンポラリーダンスのリーダー的存在として国内外で広く活動し、アートシーン (or ダンス界) に強い影響を与えています。現代人の姿を鋭く描く振付、美術・衣裳・音楽に至るまでも特異的 (or ユニーク) であり、さまざまな空間での質の高い作品上演は、海外でも高い評価を受けています。また、若手ダンサーや舞踊作家の育成プログラムにも積極的に取り組んでいます。



親子であそぼ！

手作り鉄道模型実演&爺ちゃんが語る思い出話

鉄道模型実演＝会期中（雨天中止） 会場 A（芸術館）SPACE ⑩

お話＝11/16 14:30～ 会場 B（環境教育実践施設）

お話と鉄道模型レイアウト：富永一矢

富永さんは武蔵野の面影を残す丘陵地「はけ」で暮らし、月に一度自宅の庭で鉄道模型を囲む運転会を行っています。また、小金井市雑学大学学長、学芸大学客員教授としても活動されています。今回は富永さんに鉄道模型をお借りし、子供の頃のお話や鉄道模型との出会い、さらにお住まいの国分寺崖線についてもお話をいただく予定です。



農園のお米とお芋で「餅つき&焼き芋」

餅つき大会＝11/15 11:00～16:00 会場 B（ガーデン）

焼き芋大会＝両日とも 会場 B（ガーデン）

15日は「田んぼの時間」の収穫祭。学芸大田んぼの餅米と山梨県小菅村の雑穀を使って、餅つきを行います。

農場にプレイパークが帰ってきた！

11/16 13:00～16:00 会場 B（ガーデン）

剣玉、ペーゴマなどの懐かしい遊びに親子でチャレンジ！ベッ甲焼きやカルメ焼き、わたあめもあります。

小金井の食を楽しもう

小金井市制 50 周年記念スイーツの販売

両日とも 11:00～ 会場 B（環境教育実践施設）

小金井市の市制 50 周年を記念して、市内の和洋菓子店に小金井産のさつま芋や栗、ルバーブ、はちみつなどを使ってオリジナルのお菓子を作ってもらいました。武蔵野公園のくじら山や、野川を泳ぐカモの親子をかたどったかわいいうっきーもあります。この秋だけの限定スイーツ、どうぞお楽しみください。



Book REVIEW

げんかいしゅうらく

限界集落—Marginal Village—

著＝梶井照陰（かじいしょういん）

フォイル発行 1,470 円

日本は右を向いても左を向いても年寄りばかり。山の中であろが町であろが、それは同じだ。ただ違ふとすれば子どもがいるか、いないかだ。限界集落に子どもはいない。

岩手の山間部に山形村という村があった。久慈市との合併で、今は山形町になった。平成 9 年に当時村長だった清水さんは、児童 11 人に立派な校舎を作った。子どもは大切に育て守るべき村の宝、という思いを形にしたものだった。

だがその後、地元の子どもは減少しつづけ、いなくなった。それでもなんとか校舎を守りたい、校舎があれば子どもが帰



れる場所がある……。息子たちも、孫が通える学校があればユーターンを考えて、村に帰ってきてくれるかもしれない……。はかない望みだ。村は山村留学で、事情のある子どもたちも積極的に受け入れた。里親さんは「山村留学は子どもに

とつても村にとつても命綱だよ」と言っていた。

しかし、2 年前に久慈市との合併で山村留学は廃止された。立派な校舎が廃墟となる日も来るだろう。だが、人は限界集落でも生きている。この『限界集落』を手にした人は、人間の生きざまをひしひしと感じるだろう。（文＝早咲眞古）

小金井市環境市民会議の紹介

■環境市民会議とは

「かんきょう博覧会 2008 in 小金井」を主催している小金井市環境市民会議は、「環境活動のコーディネーター役」として活動しています。本イベントをはじめ、かんきょうサロンや環境講座を実施し、環境保全や調査活動をすすめることにより、共に学び語り合い、より多くの市民の方たちとの交流の場を増やすことに努め、「環境」をキーワードに人がつながる「場づくりのサポート役」を担っています。

メンバーは老若男女さまざまで、和気あいあいとやっています。環境市民会議には以下の5つの部会があります。会員は随時募集中ですので、関心のある方は16ページの事務局までお問い合わせください。

■地下水測定部会

3年前から市内にある井戸の水位と湧水の量を測定しています。対象の井戸は今年6月から5ヶ所増えて22ヶ所になり、毎月12人のメンバーが水面までの距離を計測しています。湧水量調査は1年前から3ヶ所で測定をしています。この夏は雨がが多かったので、今のところ水量が豊富です。みなさんも一緒に地下水の測定をしませんか。



■緑調査部会

市内の緑地の状況を把握するためのフィールドワーク、調査記録のデータベース化を行っています。本年度は2005年度に実施した『市内緑地マップ』の追加・修正を進めています。再開発や宅地の急増による2年間の経年変化と、さらに2006-07年度の公園・緑地調査を重ね合わせて、基礎データの集積をはかりたいと思っています。限られた時間内での地道な作業は必ずしもスピーディーではありませんが、「継続は力なり」を基本に活動を続けています。



■環境学習部会「田んぼの時間」

平成16年に東京学芸大学環境教育実践施設の教育用田んぼを復活させ、以来5年間、市内の子ども達とその家族合わせ約60名と稲作を行っています。本年度は初めての地元産有機肥料栽培に挑戦し、「農」「環境」「食」「あそび」「家族」をつなげる活動へと一歩前進しました。



■まちづくり部会

私たちはいつも「こんなまちになったらいいなあ」という夢を描いて活動しています。まちの元気はコミュニティから生まれるというのが持論です。

どの場所にどのような仕掛けがあれば、人は出会い、挨拶をかわすのか。「ベンチを置いてみたら？ どんな形？ 木蔭もほしいね」ということで、さっそく市内のベンチの調査に。連雀通り沿いのバス停には所有者不明の「ベンチ」がいくつも放置されています。武蔵野赤十字病院行きのバスを利用する高齢者にとって、なくてはならないベンチだから、誰も文句は言えません。行政も見て見ぬふり？ でも壊れかけたベンチの運命が気になります。

最近では小金井市でも公園づくりに、地域住民が話し合いながら意見をまとめる「ワークショップ」の手法を取り入れています。「子どもにも聞いてみよう」。そんな声が出れば大成功。まちづくり部会はまちづくり条例や環境行動指針づくりにかかわった経験を活かして、まちのコーディネーターになればいいなあと思っています。

■ごみ部会

少数精鋭のごみ部会に助っ人が現れ、今年の「デポジット体験」のイベントは期待が持てそうです（ジュースの容器代に100円預かります。ご参加ください）。また16日13時からは、小金井のごみに危機感を持つ市民グループによってシンポジウムを開催します。どちらも、キーワードは「市民参加」。小金井色のない新鮮な感動に満ちたものにしたいとはりきっています。他では聞けない含蓄のある話にどうぞご期待ください。

出展団体の紹介

◎子ども関係

■KOKOぶらねっと

地域でともに育て・育ち合い、思春期を見通した子育てを提唱し、子育て・子育てを応援したいという想いで、0歳から18歳までの子どもとそのまわりにいるおとなを対象に、情報発信をしています。小金井子育て生活情報紙「KOKOぶれす」を年4回発行するほか、「幼稚園ガイドKOGANEIエリア版」「KOKOおでかけガイド遊びにIKOIKO!」を発行。隔月で「おしゃべりKOKOさろん」を開催しています。【メール】kokop510@yahoo.co.jp



■わんぱく夏まつりの会

毎年8月の最後に武蔵野公園くじら山と原っぱ、周辺の野川で実施する「わんぱく夏まつり」の母体団体です。「わんぱく菌」に感染した異年齢・異業種の市民有志が集まっています。連絡先＝tel.042-301-8199（アトリエネット内）
<http://members.jcom.home.ne.jp/wanpaku-natsu/>
【メール】wanpaku-natsu@jcom.home.ne.jp

■小金井にプレイパークを作る会

活動を始めて6年目、武蔵野公園くじら山と学芸大学の市内2箇所で開催中。子どもが自分の足でいつでも遊びに来られる常設の遊び場づくりが目標です。「農のあるプレイパーク」をテーマに里山体験活動も行い、「ケガと弁当は自分持ち」が合言葉です。
<http://blogs.yahoo.co.jp/waratotsuchi/folder/1459315.html>



■土ようのたまり場

この夏「くるりん・ぱ」の記事のために小金井市立緑小学校のニガウリ（ゴーヤ）の緑のカーテンを取材しました。世話をしている4年生の教室を訪ね、生徒達から種まきから始めた栽培の話听取了。取材したときはまだ最盛期ではなかったので、前年の立派に育ったカーテンの写真も含めて展示します。また、多摩の山に降った雨水が貯水池から水道の蛇口まで旅する様子を、4年生がそれぞれ絵巻物にした可愛い作品もお楽しみに。

■回帰船保育所

回帰船保育所は1974年にスタートしました（写真は開所間もない頃）。毎日、野川や武蔵野公園の自然で自由に遊び、0歳から6歳までの子どもたちが一緒に過ごす異年齢保育を行っています。家庭的な雰囲気のある小さな保育所です。
<http://www.npo.isnet.ne.jp/184kaikisen/baseconf>



■ひ・ろ・こらぼ

住み続けたいまち、住み続けられるまち育て、環境問題や福祉、子どもたちが楽しく安全に育つ環境づくり等の活動を行っています。
連絡先＝tel. 042-304-8339
<http://members.jcom.home.ne.jp/copig/>
【メール】copig@jcom.home.ne.jp

■東京ガス多摩支店

今年は「エコハピ」のPRとクイズを実施します。

◎自然環境の保全関係

■名勝小金井桜の会

本会は歴史的な文化遺産である「名勝小金井桜」を保全し、次代に適切に継承することを目的としています。現在、開花調査、個別の桜の状態を観察把握する樹勢調査や落葉回収作戦、また小金井桜写真展の開催などの事業を実施しながら、桜川市、北上市などと桜を通じての交流を深めています。平成20年、「日本さくらの会」より「さくら功労者」として表彰されました。

■ 小金井公園桜守の会

小金井公園は昭和 29 年に開園し、半世紀が過ぎました。玉川上水堤「名勝小金井桜（山桜）」の伝統を受け継ぐ桜の名所として親しまれています。しかし近年、樹勢の衰えが顕著になり、保護管理がままならないのが現状です。小金井公園桜守の会は平成 14 年に結成され、桜の保護育成・普及のボランティア活動を行っています。



■ 自然の会こがねい

小金井には「どんな生きものたち」が「どれくらい」いるのか？ 彼らはこれからの 100 年先まで、みることができただろうか？ 彼らが小金井にいつまでも住み続けられるよう願いを込め、また保全活動の基礎データとして「いきものマップとリスト」を作成しました。その後も継続して身近な生きものの観察・記録を続けています。



(小金井の虫カンタン・画＝高橋)

■ 野川自然の会

ようこそ野川自然の里へ！ 昔、野川のまわりに田んぼがあった頃、たくさんのメダカやカエル、トンボや鳥たちがいて、人々もたくさんの恵みをうけていました。今ふたたび、ここに命のにぎわいをよみがえらせる活動をはじめています。田んぼづくり、生きものしらべなどなど、みんなで楽しみながら続けています。一緒にやってみませんか？（環境博のお屋にお召し上がりいただくおむすび・お弁当には、「とんぼたんぼ」でとれたお米も提供します。）

<http://outdoor.geocities.jp/nogawanature/>

[メール] Nogawanature @ yahoo.co.jp



■ みんなでつくる野川ビオトープの会

当会は平成 12 年 7 月に、市民、小金井市、北多摩南部建設事務所の 3 者で構成する実行委員会を経て「みんなでつくる野川ビオトープの会」として設立されました。設立直後から市民に呼びかけて野川第 1 調節池に池を掘りました。「どじょう池」にはさまざまな生きものが生息するようになり、子どもたちが泥んこになって池で遊び、生きものと触れ合う場所になりました。当会の活動は北多摩南部建設事務所との緊密な情報交換を前提にした、池および水路の維持管理、植栽管理、ごみ等の収集運搬、ならびに利用者への PR、情報の提供と多岐に渡っています。「禁止事項を設けない」のも会の特徴です。



■ 野川流域連絡会

野川流域連絡会は、野川を地域にいっそう親しめる川としていくため、野川に関心をお持ちの市民（公募）と都および流域の関係区市の行政の委員により、野川に関わる情報や意見交換等を行うことを目的に、平成 12 年 8 月に設置されました。現在、第 4 期目がスタートし、市民 33 名・行政委員 20 名が、水環境分科会と生きもの分科会に分かれて活動しています。今回の環境博では第 3 期（平成 18 年から 19 年度）の活動状況を紹介し、*写真は野川とのつきあい方をまとめた『野川ルール』の表紙（平成 19 年 3 月発行）。

【事務局】東京都北多摩南部建設事務所工事二課



■ 東京都土木技術センター

建設局をはじめ都庁各局の土木技術に関わる技術支援を主な業務としています。今回、野川の上流域について、野川の流量を確保するため、周辺の地質や地下水を調査し、雨水浸透施設が効果的な地域の解明、野川河床の既設粘性土張りの効果確認と新規の必要区間の提案、深層地下水の揚水実験から深層地下水の活用の可能性について検討しています。
<http://doboku.metro.tokyo.jp/>

■東京経済大学 除本(よけもと)ゼミ

東京経済大学除本ゼミでは、大学に近い野川を主な対象として、身近な自然を守り再生する取り組みについて学んでいます。当ゼミでは教室で文献を読むだけでなく、野川の清掃活動や、都立武蔵野公園(「野川自然の会」の管理する水田)での農作業などに参加することを通じて、体験的に学習することも重視しています。今回の展示ではゼミ活動を通じてふれた野川の魅力についてさまざまな角度から考察し、来場者の方々にできるだけ分かりやすく伝えていくことを目指します。

◎環境まちづくり関係

■小金井まちづくりフォーラム

わたしたちは、小金井市まちづくり条例づくりを通じて「小金井らしいまちづくり」をどう進めていこうかと研究や勉強を進めてきました。小金井まちづくり市民会議を母体として発足した組織です。環境市民会議まちづくり部会などと協力して、環境配慮指針や環境行動指針、連雀通りのみちづくり提案などを行っています。

■小金井市放射能測定器運営連絡協議会

1990年7月、小金井市は放射能測定器を購入。これを機に市民団体や市民が集まり、当協議会が設立されました。以来18年間、毎週金曜日に市民から依頼のあった食品の放射能を測定し続けています。

連絡先=江藤 tel. 042-385-6650

■北欧楽会

北欧の社会、経済、政治、教育のしくみや、これまでの歩み、次の時代への展望などを知り、自然と人間の調和がとれた持続可能な社会をどのように実現するかを探ろうとしている集まりです。発足から11年が過ぎ、さまざまな分野の人々による講演(月例会)も120回を数えます。

連絡先=宮本 tel. 042-392-8069



■小金井平和ネット

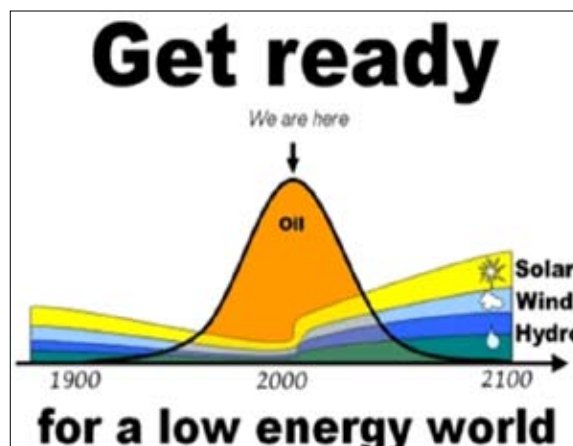
2001年9月11日のいわゆる同時多発テロを契機に引き起こされてしまった「アフガン報復戦争」に反対する活動の中で、「私たちは暮らしをいとなむ小金井から、誰にとっても平和な世界をめざします」と宣言して、2002年7月7日に発足しました。「住基ネット」異議申し立てや「安全・安心まちづくり」をめぐる連続講座を主催し、「生活安全条例」

の現状や問題点に迫りました。身近な問題からイラク侵略、パレスチナ問題のような世界大の問題にいたるまで、さまざまな平和活動に取り組んでいます。

連絡先=土井 tel. 070-5592-6791

■トランジションタウンこがねい

多くの人にはあまり意識されていないけど、石油価格は近い将来必ず急騰し、これまでのようには使えなくなる。でも、かつて私たちが持っていたはずの「打たれ強さ」や「底力」を思い出せば、石油がなくても怖くない……。それがトランジションの考え方です。緑町のように自転車で回れるくらいの小さなエリアの人たちがつながって、楽しく豊かに安心して暮らしていけるよう、具体的に何ができるか、話し合いを始めました。あなたもぜひご参加ください。



■「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク

「水俣」の問題を子どもたちに伝えるために、以下のような活動を行っています。

- 1) 小中学校、高等学校(社会科、総合学習等)などへの出前授業
- 2) 研修会、現地学習会の開催、教材収集、資料作成など
- 3) 「水俣」を伝えてきた患者さんや家族、研究者、関係者(新水俣病を含む)、小中高の教師たちとの交流
- 4) 「水俣」に関する講演会等の実施
- 5) 子どもたちの反響等を通信、報告書、論文などにまとめ、ホームページを運営
- 6) 活動の成果や反響を水俣の皆さんに伝える

http://homepage2.nifty.com/tutaeru_net

■パーマカルチャーこがねい

一般農地では、目的とする1種類の作物の収量を最大にし、人件費最小化のためにあらゆる化石エネルギー(大型機械、化学肥料・農薬)が投入されます。一方、パーマカルチャーでは身の丈サイズでモノが循環し、多様な植物(動物)同士が機能的に配置していく生態系のメカニズムを重視。つまり、「永続する農」を中心とした生活のデザイン体系です。今回の環境博では、狭いながらもこんな思いをもってできた庭をご紹介します。

■グリーンネックレス

JR中央線の高架化事業によって高架橋が出現したり鉄道南北の道がつながるなど、私たちがとりまく自然環境や生活環境が大きく変わろうとしています。グリーンネックレスはこの鉄道高架化に伴い、武蔵野大地の水・みどり・人のふれあいを大切にしまちづくりの契機となるよう、下記の活動をはじめさまざまな事業を進めています。

- 1) JR 中央線高架橋の雨水を活用した緑化・発電システムの設置提案
- 2) 雨水自動灌水プランター設置による商店街の緑化
- 3) 武蔵野の緑地を保全する華のある風景づくり

<http://www.green-necklace.org/>



■法政大学大学院エコ地域デザイン研究所

「環境の時代」を切り開く真の「都市と地域の再生」のための方法を研究することが、この研究所の目的です。とくに、長い歴史のなかで豊かな環境を育みながら、20世紀の「負の遺産」におとしめられた水辺空間を再生し、21世紀の都市・地域づくりの大きな柱にすることを目指しています。環



境のバランスと文化的アイデンティティを失った日本の都市や地域を持続可能で個性豊かに蘇らせるために、〈エコロジー〉と〈歴史〉を結びつける独自のアプローチをとるところに、この研究所の大きな特徴があります。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、そして日本の専門家が国際的なネットワークを形成し、西と東の知恵を交流させながら、多角的な理念と手法を探究することにより、問題解決に取り組みます。また世界の人々から注目を集める「東京」を重要な研究対象とするこも、この研究所のもう一つの特徴です。他の国・地域の都市と比較しながら、東京の水辺空間のあり方を深く研究し、その再生のための具体的な方法を積極的に提言していきます。

<http://www.eco-history.com/>

◎ごみ問題関係

■小金井市消費者団体連絡協議会

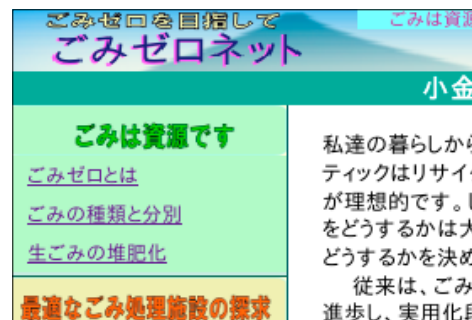
市内で活動する消費者団体が連携・協力して、消費生活の向上と消費者の権利の確立を図る目的のために必要な以下の事業などを行っています。

- ・消費生活に関する啓発事業：消費者講座の開催
- ・機関誌「SCRUM」の発行
- ・消費生活に関する調査研究事業：本年はレジ袋出口調査
- ・リサイクル事業：リサイクルバザー、食器リサイクル、おもちゃの病院の開催（毎月第3木曜日、上之原会館）

■シニア SOHO 小金井

シニアの経験と能力を活かした地域貢献活動をしています。環境分野では「ごみ問題を考える市民ネットワーク」に参加して、家庭でのごみ処理などごみゼロ活動の実践と普及に取り組んでいます。また、ごみゼロ社会を目指す市民・活動団体と協働で、ごみの発生から最終処分場までを網羅したごみゼロに関するポータルサイト「ごみゼロネット」の制作運営に携わっています。

<http://sohokoganei.org/>



■小金井生活クラブ運動グループ地域協議会

「まちづくりは自分たちの手で」をスローガンに、生活クラブ生協まち・小金井、小金井・生活者ネットワーク、土ようのたまり場、(NPO) はあとぽっと、(NPO) ほっとわあくの5団体が活動しています。毎月定例会を開いて、市民からの声を一言提案で集め、予算要望書をつくって小金井市に提出したり、大気汚染調査や野川の水質、川辺の環境調査を行っ

ています。今年の博覧会では、食べたものが自然の土にもどる循環の話を子どもからおとなまで分かりやすい環境紙芝居にして、皆様にお伝えします。

連絡先＝地域協議会事務局 tel. 042-387-1068

■トンボの会

1994年からごみ問題を考えるサークル活動をしています。今年は国分寺市の市民グループと連続学習会をおこなっています。12月14日(日)14時から、国分寺労政会館で第3回学習会をします。焼却以外の可燃ごみの処理について3つの方法を検討することになっており、各メーカーに説明を依頼しているところです。どうぞいらしてください。

連絡先＝市原 tel.0422-55-4767

■小金井市ごみゼロ化推進会議 まち美化部会

まち美化部会は、「ごみの減量」と「まちの美化」に向けての活動を行っています。市民の皆さんと協力しながら、限りある資源を有効に活用するためにごみの分別・資源化を進め、ごみの減量を目指しています。また、住みよいまちづくりを目指し、まちの美化活動として各種キャンペーンへの取り組みや不法投棄されたごみの除去活動も実施しています。

- 1) まち美化部会と自治会等の連携を強め、まち美化のための協力体制をつくる
- 2) 駅頭喫煙マナーアップキャンペーンへの取り組み
- 3) 大型店舗前でのマイバッグの利用促進・プラスチックの分別指導のキャンペーン
- 4) 市内に放置されている自転車の通報・撤去
- 5) 粗大ごみの不法投棄の通報・撤去
- 6) 市内一斉清掃等への参加
- 7) 市民祭りでのごみ分別指導

事務局＝小金井市環境部ごみ対策課 tel. 042-387-9835

■小金井市ごみゼロ化推進会議 啓発部会

啓発部会では市と協力してごみ減量のための学習会、見学会、講演会、体験交流会などを行って、市民と一緒にごみ減量方法を検討しています。また、生ごみ処理のプロジェクトチームも活動し、生ごみ堆肥化などの実践結果報告などを行っています。これらの成果をまとめて、市の施策に提言を行う予定です。今回の環境博覧会では、さまざまな生ごみ処理機やごみ減量に関するパネルをわかりやすく展示紹介します。ごみの減量について一緒に考えてみませんか。

事務局＝小金井市環境部ごみ対策課 tel. 042-387-9835

■小金井市ごみゼロ化推進会議 事業所部会

燃やせるごみの収集日前日から当日の朝にかけて、武蔵小金井駅周辺を北と南に分かれて、ごみの実態を調査。目的は、事業系指定収集袋の使用とごみの分別状況を現場から学習することでした。「事業所ごみの実態調査」から見えるものについて展示します。このほか、事業所部会では以下のような活動を行っています。

- 1) コンビニでのマイバッグ持参とレジ袋削減運動
- 2) まち美化部会の活動への協力
- 3) 予定として、事業所ごみの第2次実態調査や商工会を通

して業種別組合との話し合いを持ちます。

事務局＝小金井市環境部ごみ対策課 tel. 042-387-9835

◎芸術文化関係

■アール・ドール (art d'or)

小金井をアートなまちにしたい。アートを大切な環境ととらえ、これから市内をフィールドに活動していく予定です。

連絡先＝土井 tel. 070-5592-6791

■One's Eyes Film (ワンズ・アイズ・フィルム)

多摩地域や小金井での実験映画・個人映画・ドキュメンタリーなどの自主上映、映画制作、8ミリワークショップなど、映画にまつわるさまざまなことを行っているグループです。

連絡先＝ 042-387-7035

■Japan Young Greens

私たちは環境問題を政策・制度から考える団体です。欧州を中心に盛んな「持続可能な社会を目指す緑の政治」を日本にも求めて、環境問題に関する政策などを勉強しています。Global Young Greensの中で存在感を示せる団体になりたいと考えています。

[メール] green-flags@yahoogroups.jp

◎食と農関係

■小金井地産地消追跡隊

私達(東京学芸大学/多摩川エコモーション学生企画委員)は小金井の農家を取材することを中心に活動しています。小金井の農業に関わる方々の生の声を聞き、そのインタビュー映像をたくさんの方々に観ていただくことで、小金井の農業の現状と農家の方々の想いや願い、そして農業のこれからについて、少しでも考えていただければと思っています。

■おむすび屋 Wa Gaya (わがや)

武蔵野公園・野川近くにあるおむすび屋さんです。土鍋でいねいに炊いたごはんを握っています。お散歩のお供にぜひどうぞ! 金曜日限定の「牛すじカレー」が今や名物となっています。第二中学校裏、三角屋根が目印です。

tel. 042-384-5229

<http://www.wa-gaya.com>



■珈琲屋台 出茶屋

炭火と鉄瓶で沸かした小金井の井戸水と、厳選した豆を使い、一杯ずつ心を込めてお淹れします。

<http://de-cha-ya.com>



■ミュゼダグリ

ミュゼダグリとはフランス語で「農業の博物館」という意味。「都市農業の活性化」という視点から、駐車場やアパート経営に対抗する農業経営として、農体験の「サービス産業化」を提案しています。農体験の場づくり（＝農地を残すこと）は、都市の貴重な緑環境や水環境の保全にもつながります。その一方で、小金井ならではのユニークな農産物として「江戸東京野菜」を提案し、これらによる農・商連携のまちづくりを支援しています。また今年の秋には栗やさつまいも、りんご、ルバーブなど地元農産物を和洋菓子店に紹介して、「市制 50 周年記念スイーツ」づくりにも取り組みました。環境博でもその一部を展示・販売いたします。

<http://www.musee-d-agri.org/>



■全国無洗米協会

無洗米の規格の策定・認証および、出張講座・環境展への参加、さらに「お米のとぎ汁」による水質汚染を低減するための啓発活動を行っています。

連絡先＝ tel. 03-3574-8761

<http://www.musenmai.com/>



ここに紹介した出典団体のジャンルは、今回の環境博の展示内容で分けたもので、実際には広範囲にわたる活動を行っている団体もあります。また、連絡先等が明記されていない団体は、16 ページの小金井市環境市民会議事務局までお問い合わせください。

小金井市環境政策課だより

(その2)

音公害(生活騒音)について

こんにちば、小金井市環境政策課です。古来、日本人は小鳥のさえずりで目覚めたり、お寺の鐘で家に帰る時間を知りました。

いま私たちは、さまざまな局面での急速な変化を遂げた結果、社会全体がこれまで人が経験したことのない大量の人工的な音に取り囲まれることになりました。

音は同じものであっても、それを必要とする人には受け入れられ、必要としない人には「騒音」として受け止められます。音に対する好き嫌いは、音の大きさや種類で必ずしも一律に決まるのではなく、その音に対する必要の度合いや音に対する価値観の違い、あるいはその時の状況によっても変わってきます。

このように、音に対する感じ方は人によって異なりますが、一般的に事業活動や生産活動に伴って発生し、比較的広範囲に影響を及ぼす音は、多くの人に騒音として認識さ

れることから、法律や条例で規制する対象となっています。

一方、日常生活行動や家庭に普及している家電機器、ピアノ、ステレオなどから発生する音、また人の声、ペットの鳴き声、風鈴の音など、人が日々生活することにより発生する音は、これを法律や条例で規制することは日常生活に制限を加えることにもなることから、一律的な規制になじみにくいものといえます。

このような「生活騒音」は、ふだん生活を営む上で必然的に発生するため、同じ人がときには被害者に、ときには加害者になるという特性があり、その対策に特効薬はありません。住民、行政、機器類の製造業者、住宅建設業者等の関係者がそれぞれの立場から、さまざまな努力を積み重ねていくことが求められます。

生活騒音は人の活動にともなって発生するものですから、相互の信頼関係がある場合とそうでない場合には、受け取り方が大きく異なります。そのため、一人ひとりがふだんから、社会性を大切にするよう心がけていくことが必要になります。

次回は、生きもの(鳥獣、衛生害虫)についてお話します。

雨を活かす (おはなしその3)

●帰郷して「水」を想う

10月の連休に帰郷し（北海道上磯町＝現北斗市）、幼年時代に世話になった先輩方と二十数年ぶりに会った。昔話に華が咲き、ふと幼児の頃を思い出し、私の環境に関する考え方の原点を再認識できた気がする。

当時、町の水道水は共同水道で、沢の水が溜まっている「釜」という場所から取水し、砂ろ過だけで各戸に供給していたため、各家では汲み置きをして水がめに溜めて使用した。落葉した山からの、おいしい水である。今では浄水場から各戸に水道が引かれているが、蛇口から直接飲んでもおいしい。

子どもの頃、家には水がめの水しかないので大切に使った。雨水も別に溜めておき、外で遊んで帰ってきたとき、まず手足を洗った。次にその水で汚れ物の下洗いをし、最後に家庭菜園等に散水した。田畑や空き地、樹林も多かったので、台風でも川は氾濫しなかったように記憶している。

近年、都市では雨は「廃棄物」として扱われ、河川や下水道によって遠くに早く運ぶ策をとってきたように思う。風の流れの変化は都市型豪雨を生み、田畑が住宅に変わり、樹林の減ったまちは雨水等の浸透率を減少させている。地上に降った雨の流れの速さは予想以上で、内水被害、都市型洪水等の新たな問題が表面化し、国土交通省もその対策費を計上している。

小金井市では20年前から、市が独自に考案した「多孔型浸透ます」を設置する等の雨水浸透事業を進めてきた。その結果、平成20年8月末には浸透ますの設置率が51.6%と世界に誇れる数値となったが、効果は春の芽吹き時に湧水が枯れなくなった程度である。野川の水源としては不十分で、夏に枯渇の場所が目立つことから、流出率の低い農地や緑地の補完といった程度にすぎない。

このような状況のなか、今までの対症療法を取りやめて、施策を根本から考えなおす時期に来ているのではないかと考えている。今年8月の産官学民の枠を超えた「雨水ネットワーク会議全国大会」の発足は、そのことを実証しているだろう。

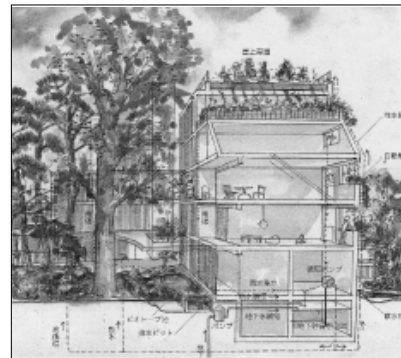
雨を活かすまちづくり

小金井市では今年度、市制施行50周年を迎えます。その記念事業として「雨を活かすまちづくり50年の継承」を共通テーマに、3つの企画を11月15日に東京学芸大学の芸術館ホールで実施します。産官学民がともに各自のネットワークで「雨をかりる、かえす、活かすまちづくり」を親子3世代、50年間継承する取り組みです。

1つ目は近隣8市市長の公開サミットで、「まちは一つ」「雨は資源」「行政の連携」「より多くの連携と承継」をテーマとして共同宣言を行います。

2つ目は、上記共同宣言を受け本市の具体的な取り組みを探るシンポジウムの実施です。「水・みどりの都100年の小金井」を30年前から提唱されている永瀬克己・法政大学教授のコーディネートで、本市市長のほか市民、学者、事業者、農業者、そしてNPO法人雨水市民の会理事長をお招きして、雨を活かすまちづくりの方法を考えます。

3つ目は、「雨と仲良し・アイデアコンペ」の実施です。雨を活かすまちづくりは、雨と親しみ、仲



日本建築学会編『暮らしに活かす雨の建築術』より

良しになることであり、本市に関わりのある広義の市民の力を必要としております。そこで、斬新で実用性のあるアイデアを「一般の部」、持っていて楽しくなる傘のデザインを「小学生の部」として募集し、会場にて発表します。

今年を雨を活かすまちづくりの初年度とし、50年後、次世代に「安全で潤いのあるまち」を継承することを目的としています。目的に向かって、あなたも50年の継承者として参加しませんか。

(文＝小金井市下水道課・倉宗司)

田んぼ物語【7】 子どものしごと

稲刈りの少し前、祖父と父が10メートル近い長さの木を使って、稲の長さで4段から5段の高さにまで稲を掛けられるよう組み上げてゆく。この「イナキ」と呼ばれるものが集落のあちこちに建つと、またも風景はがらりと変わって見えてくる。山間部のイナキは少しでも多く日の光を浴びようと、ことさら高く建てられる。

ザク、ザク、ザクと音を立て、リズムを取るようにきれいに刈り取っていく祖母の稲刈り姿はまるで稲を刈る生きもののように無駄がなく鮮やかだった。稲束を刈るなんともいえない爽快な音が、今も耳に残っている。

子どもはというと、稲刈りではあまり当てにされない。むしろ、このイナキに稲を掛けるときにこそ、子どものしごとがある。下の1、2段目までは大人たちで手際よく掛けられるが、3段目4段目になると体重の軽い子供たちがイナキに登り、投げ上げられる稲束を順に受け取りながら掛けてゆく。

「ほい」と声をかけ、手を伸ばすだけで稲の縛り口をつかめるよう、ピタッと止まるようにうまく投げ上げてくれるのが祖父だった。へたに投げてしまうと無理



な姿勢で手を伸ばしてしまい、とても危険なことを承知していたのだ。うまく取れないときは手を出さないように言われているので、届かなかった稲束が地上に吸い込まれるように落ちていくと、再びすぐに祖父の

手によって手元に投げ戻される。投げ上げられるたびに、ひしひしと祖父の思いが腕に伝わってくる。

しかし、さすがに大量の稲束と単純な動きの繰り返しにホトホトあきてしまい、下界に降りたいと訴えたが、もう少しと言って許してもらえなかった。大人にとっては遊びではないので、その日のうちに終わらせたいのだ。深い青の秋空がやがてあかね色にかわると、あまりに辛くて5段イナキのてっぺんで大声で泣き伏した。

10メートル近い高さのイナキから自分の泣き声がからんとした田んぼに響き渡ると、夕焼け空をカラスが笑いながら飛んでいった。

(絵と文＝瀧本広子)

環境講座 のお知らせ

12月のかんきょうサロン
私と小金井桜～過去・現在・未来～
小金井桜を知っていますか？

小金井桜は、江戸時代に奈良の「吉野山の桜」と茨城の「桜川の桜」が玉川上水堤に植栽されたのが始まりです。どちらも山桜でした。この桜の木は、大正時代に岩手県北上市「展勝地公園」の造成時に植栽され、「小金井」と命名されています。そんな小金井桜ですが、長年ケヤキなどの高木に覆われて衰退が危惧されています。

今回のサロンでは郷土の遺産がその美観を回復し、次世代に引き継がれることを願っての維持活動や、小金井桜の過去・現在・未来についてお話をうかがいます。

日時：2008年12月6日(土) 10:00～12:00
場所：コミュニティ湧
料金：一般300円(お菓子と飲み物付き)
講師：石田精一さん

◎石田精一さん(環境市民会議会員・名勝小金井桜の会)
もともと江戸時代に興味があつた石田さんは、学芸大学の竹内誠先生(現江戸東京博物館館長)の講座で、初めて小金井桜の存在を知ったそうです。その後、市民講座で小金井の桜を未来に残す重要性を知り、会のリーダーになったのが今から12～13年前のこと。今は名勝小金井桜の会の副会長を務めながら、小金井桜の過去・現在・未来を伝える活動をされています。

◎かんきょうサロンとは...

「かんきょうサロン」はゲストを招いて日頃の活動や環境についての考え方をうかがったり、ワークショップを開いたり…。環境に興味ある人たちみんなの交流の場です。どうぞお気軽にご参加ください！お問い合わせは下記事務局まで。

環境市民会議は「かんきょう」の仲間を募集しています！

関心のある方は、下記までご連絡ください。

編集後記

- ホワイト、ブルーと来て、グリーン(環境)カラーですね。アメリカ新大統領はこのビジネスを発展させ、500万人以上の産業従事者にする計画があるそう。環境市民会議もみんな緑の(襟の)服着てみる？ 〈オ〉
- 小金井公園で私が好きな場所は北側の静かな林です。トチ、トウカエデ等の大きな樹に囲まれて小さな池があります。ときどき、コサギなどが訪れますが、先日はカワセミが小枝で物思いに耽っていました。 〈ク〉
- 小金井でグレープフルーツがとれるのをご存じですか。温州ミカンもレモンもとれ、温暖化の影響で柑橘栽培の適地になるという話も耳にします。一方でリンゴもとれる小金井。この多様性って!? 〈ミ〉

小金井市環境市民会議会報 No.09

かんきょう博覧会 2008in 小金井特集号

2008年11月発行

発行＝小金井市環境市民会議

<http://www.koganei-kankyo.org/>

[メール] jimukyoku@koganei-kankyo.org

企画・編集＝くもりんば編集部

(緒方恵一、串田光弘、宮本幹江)

制作協力＝小金井市 環境政策課